# 2011 Abstracts for Specially Funded Research

| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2013-01-31<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: TAKAHASHI, Haruko<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/3852 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

大阪樟蔭女子大学研究紀要第 3 巻（2013）

# 世界の布文化データベースのプロトタイプ構築—アジア

学芸学部　国文学科　高橋　晴子

本研究は、国立民族学博物館が所蔵している成形されていない布地標本資料（例：サリー、腰布）を対象として、素材、文様、染織技法等を中心に、フィールドでの写真と連動させながら、8 つの地域（アジア、中東、ヨーロッパ、アフリカ、北米、中南米、オセアニア、ロシア）ごとに「布地」をデータベース化し、世界の布文化の相互影響の様相を探る研究に資することを目的としている。平成 22 年度より試行的にアジア地域の布地のデータベース化を行ってきたが、その過程において早急に情報化する必要性、とくに下記の 3 点が明らかとなった。

① 収集された布地は既に使用されているものが多く、汚染が著しく布地の劣化が激しい。

② 標本収集に際して専門家が記載した収集カードは、情報化に必要不可欠な情報の欠落があり、調査者への再確認の必要性があるものが多い。しかし、調査した専門家が高齢化しており、できる限り早期に情報収集の必要がある。

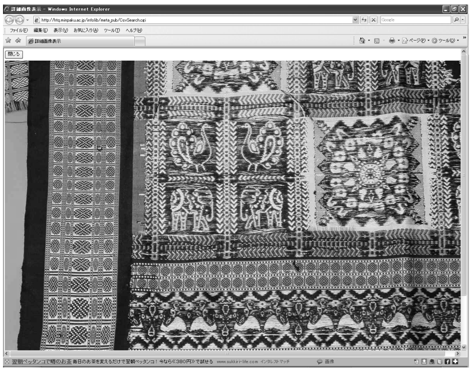
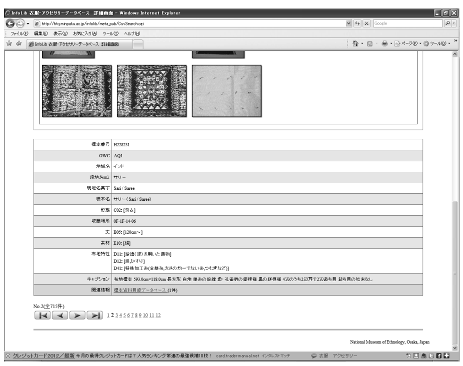
③ 近年世界各地で勃発している紛争などが原因で、人々が避難等により居住地から移動している現状にあり、それに伴い伝統的な織物の制作に際して素材・文様デザインなどが変容するなど、多大な影響が現れている。

情報化にあたっては、モノおよび文献の両面から、関係機関との連携を図りつつ、それらに関する情報も収集・分析を行い、付加情報として整備する必要がある。これにより世界の布文化に関する全体の様相が把握可能なデータベースの構築が実現し、布・衣文化を総合的に捉えたものとなり、関係各種方面で大きな需要が見込まれると考えている。23 年度はアジア地域に限定し 720 件の標本・フィールド写真のデータを作成した。試験的に、布地標本の撮影（全体、部分を一点につき平均 5 枚)、及び 13 の属性項目にそっての索引付けをおこなった。さらに、布地標本とリンクを張るフィールド写真の選定を行った。また、既公開の博物館全体のデータベースである《標本目録データベース》とのリンクを実現した。現在、720 点中、336 点の布地については、既に公開している《衣服・アクセサリーデータベース》に含めて、試験的に公開している。属性項目の妥当性、フィールド写真との関係づけ、およびユーザインタフェースの善し悪しの判断については、合計 1,000 件の標本資料の分析・入力・公開が必要である。

下記に、現在公開されているインドのサリーを例に、全画像、拡大画像、文字属性情報のメタデータを記す。

全画像例

拡大画像例



メタデータ例